

図書館だより

名古屋経済大学 図書館
名古屋経済大学短期大学部

2008.11 Vol.56

Every extension of knowledge arises from making the conscious the unconscious.

Library News

Our business in this world is not to succeed, but to continue to fail in good spirits.

Library News
Library News
Library News
What is done can't be undone.

contents

目次

特集
貴重本紹介

貴重本紹介シリーズ 8
『日本一ノ画噺』シリーズ
〔復刻 絵本絵ばなし集〕



▲シリーズ中復刻された6冊と、右は麦わら細工を模した紙製の箱。

明治維新後、印刷技術の向上により、日本の絵本文化は急激に花開きました。その1つの頂点ともいえるのが、この1911年から1915年にかけて中西屋書店から刊行された「日本一ノ画噺」シリーズ全35冊です。子どもの手のひらほどの小さなこの絵本は、それぞれ赤や黄色、緑、青の単色のベタの背景に、黒いシルエットと白抜きコントラストで描かれており、アールヌーヴォーの手法も取り入れたモダンなデザインです。また内容も、昔話から歴史、知識、日常生活など、バラエティに富んだラインナップで、五七調を基調にリズムカルで簡潔な文章でつづられています。特にこのシリーズの感嘆すべき点は、全冊をおさめるための小さな朴の木の本棚と、麦わら細工の小箱がセットになっているところです。これらを含めて全体が工芸品のような趣きで、当時の大人たちが、子どもたちへ最高のものを送ろうとした、あふれんばかりの愛情を感じることができます。本校図書館にあるものは1978年に復刻された6冊で、前述の麦わら細工を模した紙箱の中にもまるで宝物のようにおさまっています。本棚も小箱も全てが揃った状態の現物は、大阪国際児童文学館（大阪府吹田市）に唯一所蔵されており、それを寄贈した児童文学者鳥越信は、その著書の中で、本シリーズを「日本の絵本史上、不滅の金字塔」と述べています。



▲戦国時代の武将加藤清正の虎退治の場面(右)

明治維新後、印刷技術の向上により、日本の絵本文化は急激に花開きました。その1つの頂点ともいえるのが、この1911年から1915年にかけて中西屋書店から刊行された「日本一ノ画噺」シリーズ

全35冊です。子どもの手のひらほどの小さなこの絵本は、それぞれ赤や黄色、緑、青の単色のベタの背景に、黒いシルエットと白抜きコントラストで描かれており、アールヌーヴォーの手法も取り入れたモダンなデザインです。また内容も、昔話から歴史、知識、日常生活など、バラエティに富んだラインナップで、五七調を基調にリズムカルで簡潔な文章でつづられています。特にこのシリーズの感嘆すべき点は、全冊をおさめるための小さな朴の木の本棚と、麦わら細工の小箱がセットになっているところです。これらを含めて全体が工芸品のような趣きで、当時の大人たちが、子どもたちへ最高のものを送ろうとした、あふれんばかりの愛情を感じることができます。本校図書館にあるものは1978年に復刻された6冊で、前述の麦わら細工を模した紙箱の中にもまるで宝物のようにおさまっています。本棚も小箱も全てが揃った状態の現物は、大阪国際児童文学館（大阪府吹田市）に唯一所蔵されており、それを寄贈した児童文学者鳥越信は、その著書の中で、本シリーズを「日本の絵本史上、不滅の金字塔」と述べています。

随想 2

経済学部教授 縣 孝之

国内外の図書館 3

経済学部准教授 下川 郁子

読書ガイド 4

大学院会計学研究科教授 荒木 和夫

人間生活科学部准教授 東元 稔

法学部教授 巢山 靖司

短期学部准教授 水口美知子

学生コーナー 6

経営学部 伊東 孝幸

短期大学部 佐野 友美

人間生活科学部 三井 美幸

経済学部 岩田 味佳

図書館からのお知らせ 8



▲上段中央から時計回りに『ザウノアソビ』『カチカチヤマ』『アヒルトニワトリ』『ウラシマ』『キヨマサ』『ソガキヤウダイ』(大きさ縦12.8×横7.8cm)



短期大学部 講師
市毛 愛子



内久保の丘の下は

経済学部 教授 縣 孝之

名古屋経済大学が建っている内久保の丘から眺められる山桜や紅葉は美しく、幻想的でもある。実は、丘の下にもファンタスティックな世界が広がっている。丘の下は砂岩や頁岩の地層からできているが、その地層は美濃帯と呼ばれ、放散虫の化石を含み、海で堆積したものである。ここの砂岩や頁岩は後の熱変成作用を蒙っており、小豆色の硬いホルンフェルスと呼ばれる岩石に変化している。田縣神社付近では花崗岩が砂岩や頁岩の中に貫入しており、熱変成作用はこの貫入に伴うものであろう。

美濃帯の地層は内久保地域から飛騨高山や福井県南条山地まで続いており、砂岩や頁岩といった碎屑岩、石灰岩、チャート、玄武岩が変質して黒色から緑色に変わった岩石であるグリーンストーンなどからできている。この地層の年代は、以前は岐阜県赤坂や舟伏山などに産出する石灰岩中のフズリナの化石からペルム紀とされてきた。しかし近年犬山地域の頁岩からジュラ紀のアンモナイトの化石、チャートや碎屑岩からは三畳紀やジュラ紀の放散虫化石が発見された。そして、美濃帯の生成年代は、グリーンストーンと石灰岩はペルム紀、チャートはペルム紀～ジュラ紀、碎屑岩はジュラ紀となった。生成年代は原始的爬虫類が出現し始める頃から、リストロサウルスなどの獣形目の時代を経て、ステゴサウルスなどの恐竜の闊歩するまで広い範囲にわたっている。

時代の異なる美濃帯の岩石の生成場所も盛んに議論されるようになった。美濃帯の砂岩や頁岩は大陸起源の片麻岩や花崗岩の岩石片を含んでおり、大陸の沿海で堆積したものとみられている。グリーンストーンのもととなった玄武岩については、どこで生成したのかは長い間不明であった。最近になって、グリーンストーンについ

て鉱物学的、岩石化学的あるいは溶岩層序学的な研究が行われるようになり、その生成場所も次第に明らかとなってきた。南条山地の玄武岩はハワイ島のような、舟伏山地域のはナポレオンが流されたことで有名なセントヘレナ島のような、飛騨高山のものはアイスランドのような海洋島で生成されたことがわかってきた。ハワイ島、セントヘレナ島、アイスランドの火山活動はそれぞれ小規模マントルブルームのもの、スーパーブルームのもの、中央海嶺のものと異なった地質環境で起こっている。しかしながら、それらの火成活動は大陸から遠く離れた海洋部で起こっている点では共通する。また、石灰岩やチャートは海洋島の玄武岩の上に海洋で堆積したものと考えられるようになった。こうして生成した海洋性の岩石はプレートに乗って移動し、大陸近辺で堆積した碎屑岩と海溝付近でペックンゴとくつつき、くつついたものが陸化して美濃帯は形成したというロマンティックな物語を最新の学説は語る。

美濃帯形成についての学説は、地質学、古生物学、鉱物学、海洋学、地球化学、地球物理学といった多くの学問の土台の上に立っており、物事を総合的に判断することがきわめて重要であることを示唆する。もちろん、一つの学問を専門として勉強し、物事を専門分野から考えることは大切なことである。しかしながら、専門外のことも勉強して、自分の専門と合わせて考えると、美濃帯の形成のように今まで見えなかったことが見えてくるのがしばしばある。似たようなことは、実社会でも多くあるように私には思える。学生の皆さんには自分の専門をしっかり勉強する他に、他の学問分野にも興味を持ち、総合的思考力を養うことを望む。



経済学部 准教授 下川 郁子

セントラルフロリダ大学図書館 University of Central Florida Library

▼セントラルフロリダ大学図書館 外観



わたしが現在在籍しているセントラルフロリダ大学 (University of Central Florida) は、フロリダ州中部のオーランド市にあります。オーランドというと、ディズニーリゾートやユニバーサルオーランドリゾートなどのテーマパークのあるところを、思い浮かべることが多いと思いますが、大学のあるところはそれらの場所からは、高速で50分もかかる場所にあり、日本人の距離感覚からするとまったく別の町という感じです。

フロリダ州は熱帯に属し、その上オーランドは内陸にあるため、3月の終わりから9月までは、非常に蒸し暑い気候が続きます。7月からは、熱帯特有だそうですが、午後になると毎日のように雷を伴った雨が激しく降り、8月から9月にかけてはハリケーンシーズンになります。マイアミ総領事館からは、8月半ばからハリケーンや熱帯性暴風雨に対する注意を喚起するメールが26通も送られてきました(9月10日の時点)。ただ、気候は厳しいですが、太陽の光が強く雨が多いため、町の中や大学内は非常に緑が多く、動物にとっても、良い生息地となっているようで、たくさんの鳥やリスなどがおり、ときには小型のアルマジロに遭遇することもあります。

セントラルフロリダ大学は1963年創立の比較的新しい州

立大学ですが、近年発展目覚しく、現在では在籍学生数は50,000人でフロリダ州で第2番目、また全米で第6位の大きさを誇っています。広大なキャンパス内の移動は大変なので、シャトルバスが学外だけでなく学内も走っています。

大学の図書館 (<http://library.ucf.edu/>) は5階建ての建物で、定期刊行物17,000冊を含めて蔵書が180万冊あります。その他に、300万点のマイクロフォーム、45,000点のメディアタイトルがあります。昨年度の予算は図書関係費が約615万7千ドルで、施設費が32万6千ドルだそうです。

図書館内には250台のコンピューターがあり、学生が自由に使えるようになっており、また、外部のコンピューターからも本を検索し、本を予約しておくこともできます。学生が少人数グループで勉強できるように、部屋を借りることもできます。大学内のどこの建物もそうですが、図書館内もエアコンが行き届き快適な温度に保たれています。

秋学期の開館時間は、月曜日から木曜日までは午前7時半から午前1時まで、金曜日は7時半から午後7時まで、土曜日は午前9時から午後7時、日曜日は正午から午前1時までです。秋の学期は、社会人向けに多くのクラスが夜間に開かれるため、図書館も遅くまで開いており、学生にはとても便利です。また、図書館内にはコーヒーショップもあり、勉強の合間にも一息つけるようになっています。館内の設備も、開いている時間帯も、学生にとって都合のいいように配慮してあるため、いつも図書館は学生たちでにぎわっています。



▲返却カウンター

ヘロドトス 著／松平千秋 訳

『歴史上・中・下』

(468頁、337頁、390、68頁) (岩波文庫)

大津有一校注

『伊勢物語』

(115頁) (岩波文庫)



大学院会計学研究科 教授
荒木 和夫



芥川龍之介 著

『藪の中』

(芥川龍之介全集第5巻、14頁) (岩波書店)

人間生活科学部 准教授
東元 稔

ヘロドトスをただ面白いと言ってしまつては正当な評価にはならないのかもしれない。しかし、逆に、それ以外のどんな評価も



正鵠を射ていない気がする。古代ギリシャ最大の危機ペルシア戦争を扱うこの書によって、後世ヘロドトスは「歴史の父」たる称号を与えられたが、もとよりそれは著者自身のあずかり知らぬところである。

「ところで、」と、著者はしばしば脱線する。人口に膾炙した「エジプトの地域は(ナイル)河の賜物」という言葉で知られるエジプトに関する部分など、ペルシア戦争とどう関係するのか正直良く分からないが、気候・風土、文化・風俗等に関する記述は興味が尽きない。いかなる原因によってこの大戦争が起こったのかを明らかにしたいと著者が言うこの書の本題からすれば脱線としか言いようのない、このような寄り道こそが、あまたの読者を惹きつける理由なのであろう。

一方、日本の古典文学史上代表的な歌物語である『伊勢物語』は、在原業平をモデルにしているという。稀有の色男である主人公はしかし単なる女たらしではない。初冠の段から、「かきつばた」、「都鳥」、「伊勢斎宮」などのエピソードを経て、第百二十五段の「つひにゆく、」の歌まで読み通すと、彼が夫に女性に優しく、素直で感情豊かな人物であることが分かる。同性としてこのような色男が羨ましくないといえは嘘になるが、しかしその後の時代においては到底このような生涯を送ることはできなかつたに違いない。むしろそれだからこそ、いつの世でも男性にとっての理想像であつたのであろう。

「さやうでございます。あの死骸を見つけたのは、わたしに違ひございません・・・」という木こりの供述で始まるこの物語は、旅法師、放免(岡っ引き)、媼(妻の母)と第三者による証言



が続いた後、武士をだまして藪の中の杉の木に縛りその目の前で妻を犯した上成り行きで武士を殺したという盗人多襄丸の白状、夫の目の前で多襄丸にはずかしめを受けたため夫を殺して自分も死のうとしたが死にきれずにいる妻の懺悔の後、最後に巫女の口を借りた武士の死霊が、目の前で犯された妻が犯人に心を許す姿を見て二人が去つた後自害したと述べて終わる。これは単なる強姦殺人事件を題材にした短編小説に見える。が、ここで注目すべきは、作者が、事件現場にいた三者に三様の証言をさせたことである。この手法によりこの小説は多くの人々の注目を集めることとなり、さらに、「羅生門」という題名で黒澤明監督により映画化され、それが1951年ベネチア国際映画祭グランプリを受賞したため、黒澤監督や主演の三船敏郎が国内外に広く知られるきっかけとなった。また、一つの出来事を対立する複数の視点からとらえて示すこの小説の手法はわが国のみならず多くの国の映画や小説に大きな影響を与えていると言われている。私自身、かつて勤務した職場の先輩から薦められてこの小説を何年かおきに読んでいる。今回、この原稿を書くために改めて読み直してみたが、犯人はいまだに「藪の中」である。また、関連資料を集める中で見つけた「藪の中の家」(山崎光夫著、文藝春秋)でこの作家の死因を窺い知るにつけ謎は深まるばかりである。

読書ガイド

読書ガイドで紹介した本は図書館にあります。ぜひ一読ください。

高橋 洋一 著
『さらば財務省!』
(282 頁) (講談社)



法学部 教授
巢山 靖司

外国の研究者達は、日本は官僚国家で、内閣は議院内閣制とは言えず官僚内閣制であると言う。明治維新当時後進国と言われた日本は、先進国に追い付くため計画的な発展を考えるが、そのために官僚制が必要であり、官僚の供給源として東大を設立した。以来官僚は戦前・戦後を通じ日本政治・行政の中軸として位置付けられてきた。しかしここ 20 年官僚制の伝統は腐敗・墮落しそれが可視的になった。キャリア官僚の天下りと渡り、それに伴う独立行政法人の膨大な無駄使い、社保庁の不明な記録とその改ざん、農水省の事故米との関係、不明な「埋蔵金」、居酒屋タクシー、ノーパンシャブシャブ等々、枚挙にいとまなしである。

この様な墮落した官僚に挑戦したのが、この本の著者高橋洋一である。かれは財務省のエリート・キャリア官僚である。と言っても財務省のキャリア官僚はほぼ全員東大法学部卒であるが、かれは東大理学部数学科と経済学部卒の傍系であった。財務省は税金徴収権と予算原案編成権をもつ官僚制の中心であり、そのキャリア官僚は東大法卒以外は官僚に非ずと言う超エリート主義と先輩への服従心に貫かれていると言う。財務省の基本的立場は、最大限の税の徴収とその支配を目的とした大きな政府論で、改革志向の小さな政府論と対立する。高橋はコンピューターによる徹底した数量化を試み、各省庁が示す大きな政府論の数字の背後にある既得権益維持を明らかにする。道路公団民営化、郵政改革、「埋蔵金」暴露、公務員改革等の背後に高橋がいた。しかし高橋は敗北した。



宮尾 登美子 著
『天璋院篤姫』
(上巻 422 頁、下巻 389 頁) (講談社)



短期大学部 准教授
水口美知子

皆さんは、娯楽としてどんな本を読みますか。気力体力が充実した青年時代だから読める本があります。読書は「エクササイズ」、読後にゴールインした長距離ランナーのような達成感が味わえそうな、そんな読み応えのある本を紹介します。



大河ドラマで放映中の「篤姫」の原作で、作者が膨大な資料をもとに書き下ろした初めての歴史小説と評されているものです。井伊大老の桜田門外の変から大政奉還までの史実を忠実に載せるだけでなく、激動の時代を懸命に生きた女性の健気てたくましい姿を中心に描いています。

ときは、江戸から明治へと移る攘夷派と開国派が争う騒乱の時代。島津斉彬公の政治的戦略とも知らず、13 代将軍家定に嫁す運命を背負わされた男勝りで聡明な篤姫 (19 歳)。女道からいえば薄幸といえる短い婚姻生活、夫の死ですら 1 ヶ月後に知らされる定め。徳川家のために、御台所や継嗣の養育係としての役割を誠実にまっとうする。

これらのさまざまな困難を、強い意思と沈着冷静な対応で解決していく姿、「公武合体」策で降嫁する和宮の姑として、武家と公家のしきたり・格式の違いで苦悩する篤姫が和宮に嫉妬する姿などを通して篤姫の実像に迫ることができます。(天璋院は家定の没後、篤姫についての院号)

全編にわたり、篤姫が覚悟を決めて心を納得させる場面が随所にみられ、自律的な生き方を求められる現代の若者にも多いに参考になると思います。

また、御台所として大奥を統率する篤姫が見せる手腕は、現代のリーダーシップやコミュニケーションに通じるものがあります。

- ①言葉は大切なもの。第一にはっきりとよく判るように言うこと。
- ②低い声での呟きや独り言を固く戒めること。
- ③口に出したことは必ず実行しなければ、部下の信頼を失う。などがあります。

学生の皆さんには、生活の閉塞感を篤姫の智恵とパワー、他者への心遣いを参考にして乗り切ってほしいと願っています。



森 博嗣 著『スカイ・クロラ』を読んで

経営学部 伊東 孝幸

心では、思うようにいかない日々を辛く感じ、ひどい場合には死んでしまいたいと考えてしまう。しかし、体では死を恐れてしまい、食べること、眠ることを続けていくうちに死んでしまいたいという感情が薄らいでくる。そしてまた、辛い日々に対し死んでしまいたいという感情が沸き起る。このような繰り返しを経験したことはないだろうか。

この物語は、戦争を舞台にした一人の戦闘飛行機パイロットの物語である。ところが特殊なことに戦う人の多くは20代前後の若者であり、この若者たちは寿命で死ぬことがない。この特殊な人間の一人である主人公は普段のんびりとし、飛行機のこと意外は無関心といった性格だった。ある日主人公は小さな基地に移動となり、そこで同じ年代の女性上司と出会う。この女性上司が主人公と関わるごとに心を開いていくのだが、彼女も寿命で死ねない体であり、そのことからこの文章で始めに書いたことについて話すようになる。そして最後は、私の場合衝

撃的にも思えたが、また最初から読み返すと不思議と納得できてしまう最後だった。

我々若い世代はまだ生きることに慣れないでいる。その結果、社会や誰かに生きる責任を押し付けようとし、誰かを傷つけたり、自分を傷つけたりして生きるという責任を逃れようとしているように思える。しかし、この責任を逃れようとする行為を仮に人生の壁だとするならば、乗り越えればさらに進化した自分を見つけれられる絶好の機会とも呼べない。といったことを考えるようになった。

この本は重く暗い内容でもあるが、主人公とパイロット仲間たちとのやり取りは冗談が多く、戦闘機によるアクションは専門用語が少し難しかったが、私の場合は楽しんで読むことができた。

もし、気持ちが晴れないときがあるならば、芸術に触れ、特に文学に触れると新しい発見があり、新しい自分を見つけれられると思う。



奈須 きのこ 著『空の境界 上・下』を読んで

短期大学部 佐野 友美

私はこの本を 読み終えた時、しばらくの間呆然としていました。正確に言えば、まだ本の中に心が捕らわれている状態だったのです。この本は、個性的な登場人物たちを中心に、本ならではの哲学・錬金術・魔術が渦を巻き、意表をつかれるような言葉によって読む人を引きつけるのです。

私はこの本から、特別にあらうとすることよりも日常的なことが当たり前のようにあることが、どれほどすごいことか気づかされました。生きるということ・人が変わるということ・人を殺すということ……。その他にもこの本に出会ったことで、今まで素通りしてきた当たり前の出来事を違った視点から見

ることができるようになりました。この本の中で、特に印象に残った言葉は、「・・・定めるのは自分だというのに、決めるのは外側になっている。なら初めから境界なぞない。世界はすべて、空っぽの境界でしきられている・・・」。この本を象徴するような言葉だと思います。

もしこの言葉を読んで何か感じたらぜひ読んでみてください。私はこの本に出会えたことにより、自分が変わったと思います。この本のすごさは、言葉ではなかなか説明できません。本をとり、ページを開いてみないとわからないでしょう。すべては読みはじめてから始まるのですから。



魚住直子著『非・バランス』を読んで

人間生活科学部 三井 美幸

人はみんな必ずといっていいほど悩みをもっています。私も今までにたくさんので悩みました。でもそれは、私の話を聞いてくれる家族や友だちがいたから乗り越えられたと思います。

主人公の「私」は、いじめられたことから、「友だちは作らない」と決めます。私も同じように思ったことがありました。一時的な「友だちだよ」という言葉だけの友だちはいらないと思ったのです。しかし、今はそうは思いません。周りには、私を支えてくれる人がいる、話を聞いてくれる友だちがいると気づいたからです。友だちは必要なのです。友だちがいるからこそ学校が愛しいし、友だちと一緒にいるから嫌なことも忘れられると思います。

主人公にとって、不思議な一人の女性サ

ラさん、そして、クラスメートのみずえとの出会いは大きなものだったと思います。この二人に出会ったことで、主人公は、今までの考え方、「友だちは作らない」と思っていたことが少しずつ変わっていくと思います。主人公には、自分が必要としている人、自分のことを必要としてくれる人がいるということを知ってほしいと思いました。

この本を読んで、私は改めて、「友だち」について考えました。私にとって友だちとは、どんな存在なのだろう？ 逆に、友だちにとって私はどんな存在なのだろう？ 今はただ仲良くしている友だちを大切にしたい。悩んでいたら、話を聞いてあげたいし、力になりたいと思っています。



梨木香歩著『西の魔女が死んだ』を読んで

経済学部 岩田 味佳

映画を見てから原作を読むという人がいると思いますが、私がまさにそれです。この本を知るきっかけとなったのも書店に貼ってあった映画の告知ポスターでした。CMでだいたいの世界観を知り、面白そうだと思い母と二人で夜に近くの映画館へ観に行きました。きっと泣ける内容なのだろうとは思っていましたが、観終わった後、予想どおり二人とも号泣してしまいました。そして翌日には書店で原作を購入していました。この本の主人公であるまいは感受性が強く、なかなか中学に馴染めないまま家に引き籠ってしまうのですが、まいの母親が西の魔女と呼ばれる祖母の許へと預けることで、まいの心が成長していきます。その時に多くの自然

とふれあったり、魔女修行をしたりするのですが、魔女とまいの交流がとても心温まる内容で、読んでいただけで温かい気持ちになれました。また、文面が読みやすく、分厚い本でもないのにすぐに読めてしまうところもこの本の良いところ。近頃、若者の起こす事故や事件が相次いでいます。それには人それぞれの理由がありますが、ストレスを感じていたり、心が疲れてしまったからなのではないかと私は思います。みなさんも、ストレスや心の疲労を感じたら、とりあえずこの本を読んでみてはいかがでしょうか？ きっと、心が軽くなって、頑張ろうという気になれると思いますよ。



■名古屋経済大学図書館ホームページのご案内

●図書館ホームページが“リニューアル”しました。新しいサービスも追加しましたのでぜひご覧ください。



- ▶ **Information**では、図書館1階ホールの展示のお知らせ、夏休み前の長期貸出の案内、データベースの紹介など、役立つ情報を満載しています。
- ▶ **利用にあたって**と**館内案内**では、皆さんが初めて図書館を利用する時のサポートをします。図書館の施設や資料の利用方法がわかります。
- ▶ **情報検索**のページでは、本館所蔵の蔵書検索、電子ジャーナル、データベース、CD-ROM検索ができます。
- ▶ **リンク集**では、国立国会図書館、国立情報学研究所、公共図書館、大学図書館等さまざまなサイトにリンクしています。
- ▶ **相互貸借**では、教員、学生、サテライトにわかれています。他機関への文献複写、書籍貸出依頼はここからお願いします。サテライトからの本館所蔵の資料の貸出申込みこちらからどうぞ。

資料検索の表示画面も変わりました。不明なことは3階サービスカウンターにお尋ねください。

■未返却図書について（連絡方法の一部変更）

貸出は期日厳守です。返却期限が過ぎた場合は、学生にメールにて連絡しますので速やかに3階サービスカウンターに返却してください。*文書の場合は通信費をいただきます。

図書館だより Vol.56 2008.11

発行所 名古屋経済大学 図書館 〒484-0000 愛知県犬山市樋池 61-22 TEL (0568) 67-3798 (代)
名古屋経済大学短期大学部 図書館 ホームページ <http://www.nagoya-ku.ac.jp/lib/index.html>
発行 年2回
印刷所 株式会社 一誠社 TEL (052) 851-1171